

# 令和6(2024)年度県立高等学校入学者選抜の結果について

令和6年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の特色選抜が2月7日(水)及び同月8日(木)、一般選抜が3月6日(水)、また、定時制課程のフレックス特別選抜が3月6日(水)、一般選抜が3月18日(月)に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

## 1 生徒募集定員の総枠について

令和6(2024)年3月の県内中学校卒業見込者数17,052人(前年比378人減)を考慮し、全日制課程の定員を11,075人(前年比400人減)とした。

## 2 令和6(2024)年度入学者選抜について

### (1) 特色選抜

特色選抜については、全ての全日制課程高校58校114系・科で実施された。特色選抜においては全ての高校で面接を実施しており、40校88系・科では作文を、16校24科では小論文を実施した。また、学校独自検査は2校2科で実施しており、同じ2校2科で学校作成問題を実施した。

### (2) 傾斜配点、面接等

昭和61年度から一般選抜(学力検査)の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施している。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであり、今年度は3校3科で国数英の3教科により実施した。また、小山高校の数理科学科については、昨年度と同様に、数学の得点を1.5倍にする教科間の傾斜配点を実施した。

一般選抜(学力検査)受検者に対する面接は平成元年度から導入しており、今年度は22校69科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別の措置については、特色選抜と同時に行うA海外特別選抜で25名が合格した。

定時制課程においては、満20歳以上の志願者は、学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる。この制度では、3名が合格した。

以下、各教科の学力検査問題(全日制)について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程受検者1,000名を抽出して調査した結果であり、完全正答者についての割合である。

<表> 受検・合格状況の推移

	令和6(2024)年度				令和5(2023)年度				令和4(2022)年度			
	全日制		定時制		全日制		定時制		全日制		定時制	
	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜
募集定員	11,075		560		11,475		560		11,395		560	
受検人員	4,706	8,454	178	234	4,828	8,657	173	226	4,766	8,887	157	187
受検倍率	1.74	1.10	1.78	0.52	1.74	1.08	1.73	0.50	1.74	1.11	1.57	0.41
合格人員	3,107	7,267	106	215	3,162	7,481	108	217	3,122	7,582	108	186
合格倍率	1.51	1.16	1.68	1.09	1.53	1.16	1.60	1.04	1.53	1.17	1.45	1.01

※ 受検倍率=受検人員÷定員、合格倍率=合格人員÷合格人員

### 出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、国語で正確に理解し、適切に表現する言語能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の学力の実態に応じ、言語についての知識とその理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や社会生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の考え方を捉え、あるいは作品の描写や登場人物の心情を読み取るなどして、その内容をまとめて表現する力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の作品を素材にして、我が国の言語文化に関する知識や作品の世界を広く理解する力を評価できるようにした。
- 5 作文は、自分の考えを条件に従って適切に書く力を評価できるようにした。

### 結果の概要

1 は、漢字の読み・書きに関する問題である。

1の漢字の読み問題は平均正答率が86.7%、2の漢字の書き問題は平均正答率が58.6%であった。漢字の読みは、全体としてよく読めていたが、(1)の「車窓」の正答率が72.0%とやや低かった。漢字の書きは(1)「照れる」が84.8%で最も正答率が高く、(5)の「沿革」は3.6%と、最も低い正答率となった。日常生活で使用する語彙の確実な定着を今後も期待したい。

2 は、原瑠璃彦の「日本庭園をめぐる」を素材として出題した。日本庭園の顧客である「石組」と、庭園に池が作られる理由について論理的かつ明快に説明している文章である。

自分の言葉で答えを記述する設問3の部分正答を含む正答率は58.3%であった。記述問題においては、本文の語句を用いて論理的に説明する力を身に付けるとともに、書くことに対する前向きな姿勢が必要となる。

説明的な文章を読解する上では、筆者が本文全体を通して伝えようとしていることを正確に読み取る力を養っていく必要がある。そのためには、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、論理の展開について考えたりする学習を取り入れることも効果的である。

3 は、真紀涼介の「勿忘草をさがして」を素材として出題した。主人公が自己嫌悪に陥り悩んでいる友人に勇気を持って語りかけ、次第にリラックスしたコミュニケーションに移っていく場面を取り上げた。

4の主人公の様子から心情を読み取る問題の正

答率は部分正答を含めて49.1%であったが、多くの受検生が前向きに記述問題に取り組んだことがうかがえる。

文学的な文章では、グループ活動等において、各自の読みの交流を図ることに加えて、解釈の妥当性を検証し合うような学習が重要である。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとに登場人物の言動の意味を考えさせたりする学習活動によって、確かな読みの育成につなげていきたい。

4 は、「玉勝間」を素材として出題した。学者が研究内容を世に出す際の注意点について論じた文章である。

1の歴史的仮名遣いは、正答率が93.6%とよく読めていた。また、4は本文と生徒の会話を踏まえた設問であったが、部分正答を含む正答率は(I)が45.7%、(II)が73.4%という結果であった。

主語を補いながら読み進める古文の学習の特徴を念頭に、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の言動の内容や意味を捉える学習等の継続が重要である。また、言語文化を継承するという観点からも、古文特有の言葉に注目したり、話の面白さを味わったりするなど、多くの古典に親しむ機会をもち、現代に息づく古典の価値を理解することが大切である。

5 は、言語に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみる問題と、作文となっている。1では、言語に関する単なる知識の確認にとどまらず、言葉の意味やきまりを確認する機会を通して、言語生活の向上に役立てることを意図して出題した。また、2の作文では自然を守ることを啓発するポスターについて、A・Bどちらのポスターを選ぶかを条件に沿って内容を適切に書く能力を評価するものである。

テーマに対する適切な具体例、自分の考えと理由を関連づけて適切に表現することを求めている。普段の生活の中で、身の回りの出来事に対する意識を高め、考える習慣を身に付けるとともに、読み手の立場に立って自分の意見を表現する訓練をしていきたい。

<令6(2024)> 国語学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率
1	1	(1)	93.7%
		(2)	72.0%
		(3)	89.5%
		(4)	82.1%
		(5)	96.1%
	2	(1)	84.8%
		(2)	69.1%
		(3)	74.3%
		(4)	61.4%
		(5)	3.6%
2	1	94.2%	
	2	76.3%	
	3	7.6% (58.3%)	
	4	56.2%	

問		題	正答率
2	5	(I) X	49.5%
	5	(I) Y	92.3%
	5	(II)	94.8%
3	1		67.8%
	2		82.8%
	3		5.4% (49.4%)
	4		4.3% (49.1%)
	5		84.7%
4	1		93.6%
	2		44.2%
	3		73.4%
	4	(I)	3.5% (45.7%)
	4	(II)	77.5%

問		題	正答率
5	1	(1)	60.6%
		(2)	74.8%
		(3)	76.9%
		(4)	51.8%
		(5)	88.1%
	2		(95.6%)

※ ( ) 内は部分正答も含めた割合

**出題の方針**

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえて、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連にも留意して出題した。
- 2 各分野において基礎的・基本的内容を出題し、社会的事象に関する基礎的知識についての理解の程度をみようとした。
- 3 地図、写真、図版、統計資料等から必要な情報を読み取り、適切に表現する力をみようとした。
- 4 各分野において論述問題を出題し、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみようとした。

**出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳**

	地理的 分 野	歴史的 分 野	公民的 分 野	合 計
選 択	11(22)	8(16)	6(12)	25(50)
記 述	2( 4)	5(10)	6(12)	13(26)
論 述	2( 8)	2( 8)	2( 8)	6(24)
合 計	15(34)	15(34)	14(32)	44(100)

( ) 内の数字は配点

**結果の概要**

**1** は、地理的分野において、日本の各地域や地球の陸地と海洋の分布を素材として、自然環境や産業と人々の生活の関わりや、地域の特色など地理的分野についての理解の程度をみる問題である。

**4(5)**は、沖縄県と東京都の人口増減の特徴について、習得した知識や資料から読み取ったことを基に考察し、適切に表現する力をみるもので、正答率は7.2%であった。

**2** は、地理的分野において、国際連合の旗や地球規模の諸課題を素材として、自然環境と人々の生活の関わりや、地域の特色など地理的分野についての理解の程度をみる問題である。

**5**は、発展途上国における情報通信産業と人々の生活について、習得した知識や複数の資料から読み取ったことを基に考察し、適切に表現する力をみるもので、正答率は34.9%であった。

地理的分野の学習において、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係などに着目し、資料を活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの活動を充実させていくこと

が必要である。

**3** は、歴史的分野において、発掘された遺物を素材として、政治の変遷や社会の変化、対外関係など歴史的分野についての理解の程度をみる問題である。

**4(3)**は、薩摩藩と肥前藩の政策について、習得した知識や資料から読み取ったことを基に考察し、適切に表現する力をみるもので、正答率は10.5%であった。

**4** は、歴史的分野において、日本の近現代の歴史と鉄道の関わりを素材として、帝国主義や日本の近代化など歴史的分野についての理解の程度をみる問題である。

**2**は、日本の生糸産業と鉄道について、習得した知識や複数の資料から読み取ったことを基に考察し、適切に表現する力をみるもので、正答率は3.0%であった。

歴史的分野では、各時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する学習が重視されている。単元の最後に時代の特色を捉える学習活動の充実をお願いしたい。

**5** は、公民的分野において、法、政治に関する制度を素材として、地方自治や選挙制度、税の公平性など公民的分野についての理解の程度をみる問題である。

**7**は、政府や企業の子育て支援策について、習得した知識や複数の資料から読み取ったことを基に考察し、適切に表現する力をみるもので、正答率は30.1%であった。

**6** は、公民的分野において、観光を素材として、企業の経済活動や消費者の権利、政府の役割など公民的分野についての理解の程度をみる問題である。

**6**は、観光が地域に与える影響について、習得した知識や複数の資料から読み取ったことを基に考察し、適切に表現する力をみるもので、正答率は15.9%であった。

公民的分野では、法、政治、経済について、対立と合意、効率と公正などに着目し、社会的事象について考えたことを説明したり、現代社会の諸課題の解決に向けて自分の考えをまとめて論述したり、議論などをおして考えを深めたりするなどの学習活動を充実させ、思考力等の育成を図ることが求められる。

今後も社会科の学習では、課題を追究する活動を充実させ、学んだ知識・技能を活用したり、社会的事象について多面的・多角的に考察したり、構想したりする力を育成することが求められる。

〈令6(2024)〉 社会学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率
1	1	1	78.9%
		2	91.2%
		3	55.8%
	4	(1)	63.5%
		(2)	56.2%
		(3)	70.5%
		(4)	42.9%
		(5)	7.2% (37.1%)
2	1	(1)	71.7%
		(2)	70.8%
		(3)	61.2%
	2	52.3%	
	3	24.7%	
	4	47.5%	
5	34.9% (89.9%)		

問		題	正答率
3	1	1	68.8%
		2	74.9%
	3	I	59.5%
		II	53.9%
	4	(1)	73.4%
		(2)	85.7%
		(3)	10.5% (46.7%)
5	62.6%		
4	1	(1)	78.6%
		(2)	48.2%
		(3)	52.6%
	2	3.0% (73.5%)	
	3	(1)	47.9%
		(2)	61.5%
(3)	38.0%		

問		題	正答率
5	1	1	73.2%
		2	30.1%
		3	62.2%
		4	76.7%
	5	(1)	44.9%
		(2)	79.6%
	6	72.8%	
7	30.1% (79.5%)		
6	1	1	73.4%
		2	84.0%
		3	17.1%
	4	48.8%	
	5	71.0%	
	6	15.9% (63.1%)	

※ ( ) 内は部分正答も含めた割合

# 数 学

## 出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即して、数学の基礎的・基本的な知識及び技能、数学的な思考力、判断力、表現力等を総合的に評価できるよう、数と式、図形、関数、データの活用の4領域から出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字式、方程式の問題を通して、数学全般に関わる基礎的な技能の習得状況を評価し、また、問題解決のための立式、計算及び説明を記述させることにより、基礎的・基本的な知識及び技能、数学的な思考力、判断力、表現力等を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量問題や基本的性質に関する問題及び証明問題を通して、基礎的な概念や性質に気づいたり、筋道を立てて説明したり、表現したりする能力を評価できるようにした。
- 4 関数の領域では、関数の基礎的・基本的な問題や発展的な問題を通して、知識及び技能、数学的な思考力、判断力、表現力等を評価できるようにした。
- 5 データの活用の領域では、データの分布、場合の数・確率に関する基礎的・基本的な問題を通して、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を評価できるようにした。
- 6 日常生活や社会の事象の中に潜む関連や法則を数理的に考察し、数学的な思考力、判断力、表現力等を用いて、問題を解決する能力を評価できるようにした。

## 結果の概要

**1** は、各領域における基礎的・基本的な知識及び技能の習得をみる問題であり、平均正答率 67.0%であった(昨年度は 65.5%)。絶対値、おうぎ形や球等の図形の問題の理解に課題がみられた。今後基礎・基本の定着を図ってほしい。

**2** は、数と式の領域における基礎的な知識及び技能の習得、思考力、判断力、表現力等の定着をみる問題である。**1** は真の値を正しく求めることができるかを問う問題であり、**2** は走る距離と歩く距離を正しく捉え立式し、連立方程式を解く問題であり、**3** は整数の性質の証明に関する問題である。正答率は**1**が 40.8%、**2**が 52.0(71.8)%、**3**が 38.5(60.4)% ( ( ) 内は部分正答も含めた割合)であった。一つ一つの内容はいずれも基本的な内容である。与えられた条件を正しく理解し、表現・処理する力の定着が望まれる。

**3** は、図形の領域における知識及び技能の習得、思考力、判断力、表現力等の定着をみる問題である。**1** は、1つの角を共有する各辺からの距離が等しいということから、角の二等分線を用いることを理解し、それを論理的に作図する力を問う問題である。正答率は 54.5%であった。**2** は、直角三角形から三平方の定理を使うことで、線分の長さを求める問題である。正答率は、(1)が 72.6%、(2)が 8.0%であった。**3** は、円に内接する台形から、円周角の定理、三角形の内角の和の性質を用いて、三角形の合同を証明する問題である。正答率は 5.0(63.7)%であった。図形における点、線分、角の位置関係を正しく捉え、問題を解決したり、統合的・発展的に考察したりする学習活動の充実が望まれる。

**4** は、データの活用の領域における基礎的な知識及び技能の習得、思考力、判断力、表現力等の定着をみる問題である。**1** は、ヒストグラムから階級値を求める問題と、適切な箱ひげ図を選ぶ問題であり、正答率は(1)が 35.1%、(2)が 50.3%であった。**2** は、袋の中に数字の書かれた5個の玉が入っており、玉の取り出し方と、取り出された玉に書かれた数字の和に関する確率の問題であり、正答率は(1)は 58.7%、(2)は 37.8%であった。同様に確からしいことに着目し、処理する力の定着が望まれる。

**5** は、関数の領域における知識及び技能の習得、思考力、判断力、表現力等の定着をみる問題である。**1** の(1)は、2次関数の変域を求める基本的な問題であり、正答率は 56.6%であった。(2)は、2次関数の係数を変化させたときの指定された長さや傾きの変化について適切なものを選ぶ問題であり、正答率は 12.8(74.4)%であった。(3)は、平面上の面積が等しくなるときを特定する問題であり、正答率は 20.3(31.3)%であった。**2** は、図形の移動によって重なる面積を関数のグラフを活用し、移動の時間と面積の関係について考察する問題である。正答率は、(1)が 41.9(70.4)%、(2)が 33.3%、(3)が 6.0(12.1)%であった。グラフを活用することのよさを認識できるようにし、日常生活や社会の事象の考察に数学を生かそうとする態度を育むことが大切である。

**6** は、修学旅行での新幹線の座席数やタクシーの乗車数を通し、事象を数理的に捉え問題を解決するための思考力、判断力、表現力等の定着をみる問題である。正答率は、**1**が 77.8%、**2**が 45.7%、**3**が 0.1(8.6)%であった。普段の学習から場面的に正確に捉え、試行錯誤しながら粘り強く問題解決に取り組むとともに、その過程を振り返って、得られた結果の意味を考察することで、数学のよさを感じてもらいたい。

〈令6 (2024) 〉 数 学 学 力 検 査 結 果 集 計 表

(全日制課程受検者から1, 000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率		
1	1	97.2%	3	1	54.5%	5	(1)	56.6%		
	2	85.0%		2	(1)		72.6%	1	(2)	12.8% (74.4%)
	3	45.6%			(2)		8.0%		(3)	20.3% (31.3%)
	4	67.7%	3		5.0% (63.7%)	2	(1)	41.9% (70.4%)		
	5	80.9%	4	1	(1)		35.1%	(2)	33.3%	
	6	45.4%			(2)		50.3%	(3)	6.0% (12.1%)	
	7	46.1%	2	(1)	58.7%	6	1	77.8%		
	8	69.5%		(2)	37.8%		2	45.7%		
2	1	40.8%					3	0.1% (8.6%)		
	2	52.0% (71.8%)								
	3	38.5% (60.4%)								

※ ( ) 内は部分正答も含めた割合

## 理 科

### 出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、エネルギー、粒子、生命、地球の4領域の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 自然の事物・現象についての概念や原理・法則の理解や、習得した知識を日常生活や社会と関連付けて考える力をみるようにした。
- 3 観察、実験などに関する基本的な技能をみるようにした。
- 4 見通しをもって観察、実験を計画して、科学的に探究する力をみるようにした。
- 5 観察、実験などから得られた結果を分析し、解釈する力をみるようにした。

### 結果の概要

1 は小問集合であり、幅広い分野からの出題である。自然の事物・現象、観察・実験に関する基礎的な知識・技能をみるようにした。選択問題の平均正答率が74.7%、記述問題が61.0%であった。正答率の高い問題は、4 のレントゲン撮影に用いる放射線の種類を選択する問いであり、正答率は90.6%であった。正答率の低い問題は6 であり、音の往復の時間から距離を求める問いであり、正答率は32.2%であった。

2 は、微生物に関する実験を通して、分解者のはたらきや自然界における生物の数量的なつり合いについて考察する力をみる問題である。2 は微生物のはたらきを考察し、仮説を立て、仮説が正しいときに予想される結果から、どのような条件で実験を行えばよいかを考える問題であり、正答率は①が74.8%、②が68.5%であった。

3 は、部屋で使用している電気器具について、消費電力や電力量、配線の様子を考察する力をみる問題である。2 は調査結果を用い、電力量の合計が最も多い時間帯を求める問いであり、正答率は22.3%であった。2時間分の電力量の合計を求めずに解答してしまった受検生が一定数見られた。

4 は、気象観測およびデータ分析を通して、観測する技能や天気図と気圧の関係を考察する力をみる問題である。2 は乾湿計が示す値と3日間の気象データの読み取りの問いであり、正答率は49.0%であった。3 は天気図の等圧線について、正確に読み取る力が必

要な問いであり、5月1日の天気図で気圧が上昇していることを読み取れるかがポイントとなった。

5 は、ダニエル電池に関する調査や実験を通して、得られた結果を分析し、解釈する力をみる問題である。4 は電流が止まる理由を考察する問いであり、正答率は8.2%であった。銅イオンが電子を受け取る流れを説明できていない解答が見られた。

6 は、地層に関する調査を通して、地層の重なりや過去のようすを時間的・空間的に捉えて考察する力をみる問題である。4 は2つの火山灰層の厚さと広がりから、火山が噴火した順番を読み取る問題であり、正答率は16.4%であった。

7 は、身近な植物の分類の仕方について、共通点や相違点を見いだして考察する力をみる問題である。3 はコスモスの根の作りに着目して、各植物の表から共通点を見つけ出し、グループの分類を考察する問いであり、正答率は51.9%だった。コスモスがオクラと同じグループに属することを明確に示すことができていない解答が多かった。

8 は、力のつり合いに関する実験を通して、実験結果を解釈し、浮力について科学的に考察する力をみる問題である。4 は浮力のはたらき方の違いについて、実験結果から考察する問題であり、正答率は28.2%であった。

9 は、炭酸水素ナトリウムの熱分解に関する実験を通して、量的関係を見だし表現する力をみる問題である。3 は未反応の炭酸水素ナトリウムが含まれるときの数的処理の力をみる問題であり、正答率は3.3%であった。

理科の学習において、科学的な用語を理解することは大切であるが、自然の事物・現象について科学的に探究するために、仮説をもとに実験計画を立てたり、得られた結果を分析・解釈したりすることも大切である。また、学習したことと日常生活や社会との関連を結びつけて考えることも大切にしたい。そして、理科のおもしろさを感じながら、学習に主体的に取り組み、進んで科学的に探究する態度を身に付けてほしい。

<令6(2024)> 理科学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率	
1	1	45.6%	4	1	49.5%	7	3	51.9%	
	2	73.1%		2	49.0%		1	①	93.7%
	3	89.4%		3	26.1%	②		85.3%	
	4	90.6%	5	1	①	63.0%	8	2	22.5%
	5	69.9%			②	71.4%		3	50.0%
	6	32.2%		2	①	79.1%	4	28.2%	
	7	59.2%			②	55.5%	9	1	43.4%
	8	82.7%	3	45.3%	2	22.2%			
1	63.1%	4	8.2%	3	3.3%				
2	2	①	74.8%	6	1	69.3%	2	①	89.1%
		②	68.5%		②	95.2%			
	3	58.3%	3		61.0%	7	1	81.3%	
	4	81.3%	4	16.4%	2		70.6%		
3	1	79.1%	7	1	81.3%	7	1	81.3%	
	2	22.3%		2	2		70.6%		
	3	45.5%							

※ ( ) 内は部分正答も含めた割合

## 出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞く、読む、話す、書くことによるコミュニケーションを図る資質・能力を測ることができるようにした。
- 2 中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な知識及び技能についての出題に併せ、思考力、判断力、表現力等についても出題するようにした。
- 3 聞く力については、まとまりのある英語を聞き、必要な情報を聞き取ったり、概要や要点を捉えたりする基礎的な力を主としてみるようにした。
- 4 読む力については、説明文や物語文などを読み、書かれていることの概要や要点を文脈に沿って捉える力をみるようにした。
- 5 表現する力については、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の考えなどを英語で表現したり伝えたりする力をみるようにした。

## 結果の概要

**1** は、身近な事柄を素材にした、音声によるコミュニケーションの場面を扱った聞き方の問題で、3問構成とした。問題全体の平均正答率は、65.8%であった。1は対話を聞いて適切に応答する力をみる問題である。4問の平均正答率は76.9%であった。2は対話を聞いて、その概要や要点を捉える力をみる問題である。3問の平均正答率は68.2%であった。3は3人による対話を聞いて、その要点を捉える力をみる問題である。4問の平均正答率は52.9%であった。聞き方の問題は、部分正答を含めると全体として正答率が高かったが、1の(2)が60.2%とやや低かった。「聞く力」の向上のためには、一部の情報を聞き取ることに終始せず、聞き取った情報を整理し、話し手が伝えたい内容の概要や要点を捉えられるようになることが大切である。

**2** は、基礎的・基本的な言語材料についての理解度をみる問題及び目的や場面、状況などに応じて自分の考えを英語で伝える力をみる問題で、3問構成とした。1は公園の紹介文を素材にしている。6問の平均正答率は53.6%であった。2は語句を並べかえ、語と語のつながりなどに注意して正しく英語で表現する力をみるための問題である。3問の平均正答率は52.7%であった。3は外国の生徒からのメールを読み、日本の授業を紹介す

るメールを完成させる英作文の問題で、完全正答率は6.6%、部分正答を含めると76.8%であった。

自分の気持ちや考えを相手に伝わるように英語で書く力を育成するためには、言語材料についての理解の定着を確実に図るとともに、実際のコミュニケーションの目的や場面、状況を想定しながら、英語で表現しようとする取組を日頃から積み重ねることが重要である。

**3** は、タマネギの歴史などについての説明文を素材として用いた読解問題で、説明文の概要や要点を捉える力をみる問題である。4問の平均正答率は42.4%、部分正答を含めると56.8%であった。1は、古代エジプトにおけるタマネギの使用について読み取り、流れに合うように英単語を選ぶ問題である。平均正答率は46.5%であった。タマネギが持つと信じられていた力を理解した上で、人々がタマネギに求めた役割を考えながら答えを導き出すことが求められた。説明文を読む際には、話の論理展開を意識しながら、各段落や英文全体の概要や要点を的確に捉えることが大切である。

**4** は、物語文を素材として用いる読解問題で、物語文の概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるものである。今年度は、虫のために新しいすみかを作ることを通して、主人公の心が成長する様子を題材とした。5問の平均正答率は41.0%、部分正答を含めると49.8%であった。2は、主人公とその姉のやり取りを的確に把握し、姉の発言の内容を日本語で説明する問題である。出来事や登場人物の心情を読み取り、状況を整理しながら読むことが大切である。

**5** は、対話の流れを把握しながら要点を捉える力及び対話や与えられた資料等に基づき英語で適切に表現する力をみる問題である。言語の実際使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。今年度は、オランダと日本における、自転車の利用などに関する話題を中心とした対話文を出題した。問題全体の平均正答率は22.9%、部分正答を含めると42.3%であった。4は資料を参考に、文脈から判断して適切な英語で表現する力をみる問題である。3問の平均正答率は7.8%、部分正答を含めると33.3%であった。資料の内容や対話の流れを的確に把握し、既習の知識を活用して適切な英語で表現することが求められる。5は本文を読み、対話の流れを把握しながら要点を捉え、適切な英語を選択する問題である。正答率は46.4%であった。

<令6(2024)> 英語学力検査結果集計表

(全日制課程全受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	91.2%	1	(1)	67.0%	4	1	64.0%		
		(2)	91.6%		(2)	52.9%		2	11.4% (32.3%)		
		(3)	60.2%		(3)	44.0%		3	20.5% (43.6%)		
		(4)	64.5%		(4)	18.9%		4	56.5%		
	(1)	67.1%	(5)		66.8%	5		52.4%			
	2	(2)	72.7%	2	(6)	71.8%	1	11.0% (36.5%)			
		(3)	64.8%		(1)	41.7%	2	28.0% (41.5%)			
		(1)	26.9% (55.0%)	2	(2)	74.6%	3	64.9%			
	(2)	45.8% (49.4%)	(3)		41.8%	4	(1)	11.5% (35.2%)			
	(3)	75.8% (79.4%)	3	6.6% (76.8%)	(2)		2.7% (42.4%)				
	(4)	63.2% (70.1%)	1	46.5%	(3)		9.2% (22.4%)				
			2	37.4% (71.1%)	5		46.4%				
		3	32.8% (56.6%)	3	3	9.8% (48.8%)					
		4	52.9%		4						

※ ( )内は部分正答も含めた割合